

学校ホームページは、地域社会との架け橋

貝川充洋 (かいがわ・みつひろ)

尾道市立土堂小学校教科アシスタント

2015年4月、尾道市は、文化庁より日本遺産に指定されました。その概要は、

尾道三山と対岸の島に囲まれた尾道は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みによって、中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄し、人・もの・財が集積した。

その結果、尾道三山と尾道水道の間の限られた生活空間に多くの寺社や庭園、住宅が造られ、それらを結ぶ入り組んだ路地・坂道とともに中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出された。

迷路に迷い込んだかのような路地や、坂道を抜けた先に突如として広がる風景は、限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。

とされ、タイトルを、「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」とされました*1。

図1 尾道市立土堂小学校





貝川充洋

2006年度から尾道市立土堂小学校に勤務。同校のホームページ制作を担当している。同校ホームページは、06年度全日本小学校ホームページ大賞（J-KIDS大賞）デジタルイメージ賞、11年度同大賞を受賞。

尾道市立土堂小学校は、まさに箱庭的都市の中にあり、尾道三山の懷に抱かれ、尾道水道を眼下に望みながら、神社、お寺、商店街、路地など、活きた教材に囲まれた中で生まれ、今年度115周年を迎えました。115年にも及ぶ長い歴史と、たくさんの伝統・文化を持つ本校。そのホームページをここ約10年間制作してきて、私を感じたことを書きたいと思います。

■たくさんの子どもたちの写真

土堂小学校のホームページに欠かせないもの。それは子どもたちの写真です。普段の授業の様子、運動会や学習発表会などの大きな行事、異学年で行く遠足、社会見学や修学旅行など。たくさんの写真を掲載しています。

学校関係者の方から、「ホームページに児童の写真を掲載する際、保護者の方からどのような承諾の取り方をされていますか？」といった質問をよく受けます。

本校ではホームページ開設にあたり、PTAの組織である育友会を通して、「ホームページに子どもの写真が掲載されることに不都合がありましたら、担任にお知らせください」といった文書を配布していただきました。それ以降は、年度初めに新1年生に配布する最初のお便りに、上記のようなメッセージを書き添え、各担任に配布してもらいます。ちなみに今年度、ホームページへの写真掲載を承諾しない家庭はありません。

そうは言っても、子どもたちの写真をホームページに掲載することについて、全く抵抗がないわけではありませんでした。最初の頃の写真は、全体の雰囲気分かるような遠景の写真ばかりでした。ところがある日、保護者の方との会話の中で、「もっと子どもの表情がよく分かる写真を見たい」と言われました。これ

をきっかけに、子どもたち一人ひとりの表情がよく分かる写真が徐々に増えていきました。

また、他の保護者の方からは、PTC 活動の際、「先生、あれがうちの子じゃけえ、たくさん撮ってね」とも言われました。他にも、「ホームページに掲載した写真を家族で見ながら、その日の学校での出来事を話しています」と言ってくださったり、転校していく男の子との最後の太鼓の演奏で、泣きながら太鼓をたたき我が子の写真を見た保護者の方は、「あの写真には私も感動して涙が出ました。土堂小学校を選んで良かったと改めて実感させられました」と言ってくださったりしました。

ホームページを作っている者として、保護者の方からこういった感想を直接聞くことができるのは、とても嬉しいことです。このように土堂小学校のホームページは、保護者の理解と協力のおかげで成り立っていると言えます。

図2 ホームページに掲載された子どもたちの写真



■子どもたちの関わり

学校の主役は、何といても子どもたちです。ホームページ制作を始めた時、そんな学校の主役である子どもたちに、どうにかしてホームページ制作に関わってほしいと思っていました。

現在、子どもたちが関わるコンテンツとしては、友達や地域の人、家族に優しくしてもらって嬉しかったことを書く「やさしさ貯金箱」、報道委員会の児童が撮影した、給食風景や学校の写真を掲載する「給食」のページや「土堂っ子の壁紙」、自分が書いたブログの記事をアナウンサーになって伝える「土堂っ子ステーション」などがあります。

その中でも、子どもが関わるコンテンツの最たるものとして、報道委員会の児童が書くブログ「土堂っ子日記」があります。しかしホームページ制作を開始した当時は、報道委員会こそあれどその仕事内容は校内の掲示物作成が主で、ブログは書いていませんでした。そこで、当時の6年生にお願いをして、その日の日直にブログの記事を書いてもらうことにしました。

土堂小学校の6年生は毎日忙しい日々を過ごしており、なかなか継続的な活動となることはありませんでしたが、ただ一人、ブログを書き続けてくれた女の子がいました。その子は、忙しいなか時間を作り、卒業の日まで記事を書き続けてくれました。次年度からブログの記事を書くことは、報道委員会の正式な仕事となり、現在まで書き続けられています。今のブログ「土堂っ子日記」があるのは、当時の6年生たちのおかげです。

ブログを書くことが報道委員会の正式な仕事となった以上、報道委員会のメンバーである児童それぞれが、自分に与えられた大切な仕事なのだという意識を持って取り組まなければなりません。報道委員会に入った児童の中には、文章を書くのが得意ではない子もいます。文章を書くのが得意な子は、一つの記事を書くのにも時間がかかります。文章を書くのが得意な子も得意な子も、報道委員会のメンバーであるという意識を持って活動をしてもらうために次のような手立てを用意しました。

年度初めの委員会活動では、ブログを書くための方法を簡単に説明します。本校の児童はパソコンを扱うスキルが比較的高く、簡単な説明をすればあとはブログを書いていくうちに自然と身についていきます。委員会活動の時間の大部分を、「報道委員会のメンバーとしてあるべき姿」のような内容で話をします。

たとえば話の内容は、

- 学校には様々な委員会があり、それぞれの仕事で学校を支えている。では、報道委員会でブログを書くことで学校を支えることができるのか？
できる！ 他の委員会活動の仕事頑張っている人、太鼓の練習や勉強を

頑張っている人。ある友達がこんな親切なことをしていたなど、そういったことを記事に書いて紹介すれば、それは学校を支える立派な力となる。

- 文章を書くのが苦手な子もいるかもしれない。でも大切なのは、気持ちを込めて記事を書いたか。その書いた記事は、正確で分かりやすいか。そして、記事を読んだ人に気持ちが伝わる文章かということ。
読んだ人に気持ちが伝わると、もしかしたら感想を送ってくれるかもしれないよ。
- 記事のネタは、どんな所にでもある。パソコンの前に座ってから記事の内容を考えるのではなく、普段の生活の中で意識してネタを探す。
記事の中に、自分の感想や思いだけでなく、友達や家族にインタビューしたものを書いてもよい。
- 土堂小学校のホームページには、学校の情報や子どもたちが楽しそうに学校生活を送る様子の写真やムービーがたくさん掲載されている。しかし、土堂小学校の子どもたちの気持ちが分かるのは、みんなが書くブログ。
みんなが書くブログによって、自分自身、友達、先生、学校、家族、地域（尾道）の良さを世界へ発信していこう。
土堂小学校のホームページと、土堂小学校が盛り上がるように、みんなの力を貸してください。

などなど。

図3 ブログを書く



上手な文章を書くことができればそれはその方が良いですが、それ以上にブログの記事を書くという仕事を、子どもたちが楽しみながら、土堂小学校の情報発信を自分が担っているんだという気持ちを育てることが大切だと思います。

記事を一定数書いた児童には、「ログマスターカード」(図4)を授与します。記事50個で「ログマスター」、100個で「ログスーパーマスター」、150個で「ログプロフェッサー」、200個で「ログディスティングイッシュトプロフェッサー」、250個で「ログレジェンド」。

気をつけなければならないのは、このログマスターカードをもらうために記事を書くようにならないようにすることです。あくまでも、一つひとつの記事を大切に書き、それが積み重なってカードがもらえるんだと、定期的に子どもたちには言っています。

図4 ログマスターカード



■ 出会い



図5 外国の方との出会い

土堂小学校のホームページを見た方から、様々なアクションがあります。

報道委員会の児童が書くブログや撮影した写真を見て、土堂小学校のファンになったというカナダの方。日本を旅行するのが好きな方で、毎年のように日本各地を旅行されるそうです。2015年3月には、土堂小学校を旅行のコースに入れ

でわざわざ来校してくださいました。Facebookに掲載した写真や子どもたちのブログ記事に対して、「いいね！」を押して下さったり、コメントを書いて下さったりします。

ホームページに掲載してある子どもたちの写真を見た高等学校の美術部の先生から、美術部部員の尾道合宿で、土堂小学校の子どもたちを撮影させてほしいと依頼がありました。2日間にわたって土堂小学校の子どもたちを撮影した写真は、毎年行われる「写真甲子園」に出品され、500を超える高等学校の中から見事に全国大会出場の切符を獲得されました。

報道委員会ではブログを書く仕事以外に、給食風景をデジカメで撮影するという仕事もあります。子どもたちが撮影した給食風景の写真は、ホームページの「給食」のページに掲載します。それまで子どもたちは小さなデジカメを使って給食風景を撮影していましたが、カメラマンの中村こどもさんとの出会いが、子どもたちに積極的に一眼レフカメラを使わせるきっかけとなりました。

図6 中村こどもさんのワークショップ



図7 給食風景や街を撮影する



中村さんには一眼レフを扱うワークショップを行っていただきました。子どもにとっては理解するのが難しそうなカメラの仕組みや様々な設定方法を教えてください、報道委員会のメンバー全員に一眼レフを持たせて撮影会をしました。一眼レフカメラで写真を撮る子どもたちはとても生き生きしていました。撮った写真が失敗したら、自分なりに設定を変え再度撮影します。自分の思い通りの写真が撮れた時や思いもよらない写真が撮れた時、子どもたちは本当に嬉しそうな表情をするのです。

一眼レフカメラを子どもたちが使うようになって、ホームページのコンテンツが一つ増えました。「土堂っ子の壁紙」というページです。子どもたちが学校の中を撮影した写真を掲載し、見た人が気に入った写真を、パソコンの壁紙として使ってもらおうというものです。

そして最近では、放課後や休日に学校を飛び出して、尾道の街を撮影しています。子どもたちには、写真撮影の技術が向上してほしいというだけでなく、給食

風景や街の撮影を通してコミュニケーション能力も高めてほしいと思っています。たとえば、ただ単に給食風景を撮るだけでなく、被写体となる子どもたちに話しかけながら撮影してみるようにアドバイスしています。

「美味しい?」、「全部食べられそう?」、「この中で何が好き?」

また街を撮る時には、すれ違う人に挨拶したり、話しかけられたら会話を楽しんだり。

「土堂小学校には上手な写真を撮る子どもたちがいる」、尾道の街の人々にそう思ってもらえるようになると嬉しいです。

■ J-KIDS 大賞

ホームページを制作し始めた最初の年に、第4回 J-KIDS 大賞のデジタルイメージ賞に選出していただきました。そして最後となる第10回まで、7回連続で賞に選出していただきました。特に第9回で大賞をいただいた時のインパクトは、相当大きなものでした。

図8 J-KIDS 大賞表彰式



土堂小学校が大賞を受賞したということがその日のニュースで放送されると、ホームページへのアクセス数が爆発的に伸びました。1日で10万アクセスに達し、次の日も11万アクセスもあり、プロバイダから苦情がくるほどでした。

第4回から第10回まで、全7回の受賞で19人もの土堂っ子が、東京での表彰式に参加させていただきました。表彰式では、子どもたちは様々な人と出会い、交流をさせていただきました。そして、J-KIDS 大賞によって土堂小学校のことを多くの方々に知っていただくことができました。第4回のデジタルイメージ

賞でいただいた賞品の一眼レフカメラ、今も大切に子どもたちが使わせていただいています。

■なぜ学校ホームページを作るのか

ホームページを作る最大の理由。それは、「子どもたちは学校でこんなに頑張っています。子どもたちはこんなに楽しんでいます」ということを、多くの人に知ってもらいたいということです。それを実現するために、ホームページは最適な媒体だと思います。また、ブログや SNS など手軽に情報を発信できるツールがたくさんあります。

土堂小学校に限らず、全ての学校には発信すべき素晴らしい風景が必ずあります。

図9 学校での子どもたち



写真はすべて土堂小学校提供

授業で先生の話真剣に聞く子どものまなざし。休憩時間、グラウンドを元気に走り回る子どもたち。給食を美味しそうに食べる姿。できなかったことが、少しずつできるようになっていく過程。1年生に優しく語りかける6年生。学校は、保護者が知りたい・見たいと思う様々な出来事にあふれています。

どんな小さな出来事でも、日々何度も繰り返されるありふれた出来事でもかまいません。それら学校の“今”を即座に、定期的に発信することによって、学校への信頼を得るための力の一つとなります。そしてそれを発信できるのは、そこで学ぶ子どもたちと教職員です。地域によって様々な状況があるとは思いますが、見た人の気持ちが優しくなるような情報が、少しでも多く発信されるようになればと思います。

註

★1——文化庁「日本遺産 (Japan Heritage)」について

<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/index.html>